

# ダイワ短期国際機関債ファンド (毎月分配型)－成長の絆－ (年2回決算型)－成長の絆(年2回)－

## 運用報告書 (全体版)

毎月分配型  
 第91期 (決算日 2022年 8月22日)  
 第92期 (決算日 2022年 9月21日)  
 第93期 (決算日 2022年10月21日)  
 第94期 (決算日 2022年11月21日)  
 第95期 (決算日 2022年12月21日)  
 第96期 (決算日 2023年 1月23日)  
 年2回決算型 第15期 (決算日 2023年 1月23日)  
 (作成対象期間 2022年 7月22日～2023年 1月23日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	毎月分配型	2015年 1月22日～2025年 1月21日
	年2回決算型	2015年10月15日～2025年 1月21日
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ短期国際機関債マザーファンドの受益証券
	ダイワ短期国際機関債マザーファンド	新興国通貨建ての国際機関債
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	毎月分配型	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。また、第1および第2計算期末には、収益の分配は行ないません。
	年2回決算型	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、経費控除後の配当等収益等を中心に分配することをめざします。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、国際機関が発行する新興国通貨建債券に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
 お問い合わせ先（コールセンター）  
 TEL 0120-106212  
 (営業日の9:00～17:00)  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<5649>  
<2702>

（毎月分配型）－成長の絆－

最近30期の運用実績

決算期	基準価額			JPMorgan GBI-EM ブロード ダイバーシファイド (円換算)		公社債 組入比率	債券先物 比率	純総 資産額
	(分配落)	税込 分配 金 円	期中 騰落率 %	(参考指数)	期中 騰落率 %			
67期末(2020年8月21日)	円 5,667	円 40	% △3.2	9,840	% △1.1	% 92.6	% -	百万円 1,269
68期末(2020年9月23日)	5,634	40	0.1	9,845	0.1	93.0	-	1,255
69期末(2020年10月21日)	5,649	40	1.0	9,926	0.8	94.5	-	1,207
70期末(2020年11月24日)	5,755	40	2.6	10,198	2.7	94.3	-	1,217
71期末(2020年12月21日)	5,832	40	2.0	10,482	2.8	94.7	-	1,229
72期末(2021年1月21日)	5,815	30	0.2	10,449	△0.3	96.0	-	1,175
73期末(2021年2月22日)	5,898	30	1.9	10,523	0.7	95.3	-	1,144
74期末(2021年3月22日)	5,925	30	1.0	10,528	0.0	95.0	-	1,146
75期末(2021年4月21日)	5,883	30	△0.2	10,519	△0.1	94.6	-	1,098
76期末(2021年5月21日)	6,018	30	2.8	10,748	2.2	93.6	-	1,100
77期末(2021年6月21日)	6,018	30	0.5	10,818	0.7	93.4	-	1,079
78期末(2021年7月21日)	5,938	30	△0.8	10,699	△1.1	94.8	-	1,027
79期末(2021年8月23日)	5,839	30	△1.2	10,587	△1.0	94.2	-	996
80期末(2021年9月21日)	5,903	30	1.6	10,658	0.7	95.3	-	972
81期末(2021年10月21日)	6,127	30	4.3	10,983	3.0	94.1	-	977
82期末(2021年11月22日)	5,786	30	△5.1	10,708	△2.5	94.4	-	905
83期末(2021年12月21日)	5,595	30	△2.8	10,570	△1.3	94.8	-	866
84期末(2022年1月21日)	5,690	30	2.2	10,780	2.0	93.0	-	863
85期末(2022年2月21日)	5,788	30	2.2	11,022	2.2	94.9	-	861
86期末(2022年3月22日)	5,747	30	△0.2	10,601	△3.8	95.4	-	837
87期末(2022年4月21日)	6,148	30	7.5	11,208	5.7	94.2	-	884
88期末(2022年5月23日)	5,941	30	△2.9	10,784	△3.8	94.5	-	847
89期末(2022年6月21日)	6,132	30	3.7	11,142	3.3	96.5	-	839
90期末(2022年7月21日)	6,031	30	△1.2	11,105	△0.3	96.0	-	816
91期末(2022年8月22日)	6,041	20	0.5	11,328	2.0	96.0	-	804
92期末(2022年9月21日)	6,259	20	3.9	11,706	3.3	95.6	-	806
93期末(2022年10月21日)	6,362	20	2.0	11,687	△0.2	93.1	-	806
94期末(2022年11月21日)	6,164	20	△2.8	11,473	△1.8	94.8	-	764
95期末(2022年12月21日)	5,874	20	△4.4	11,097	△3.3	93.3	-	725
96期末(2023年1月23日)	5,913	20	1.0	11,255	1.4	93.5	-	720

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) JPMorgan GBI-EMブロード ダイバーシファイド (円換算) は、JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド (米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド (米ドルベース) は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

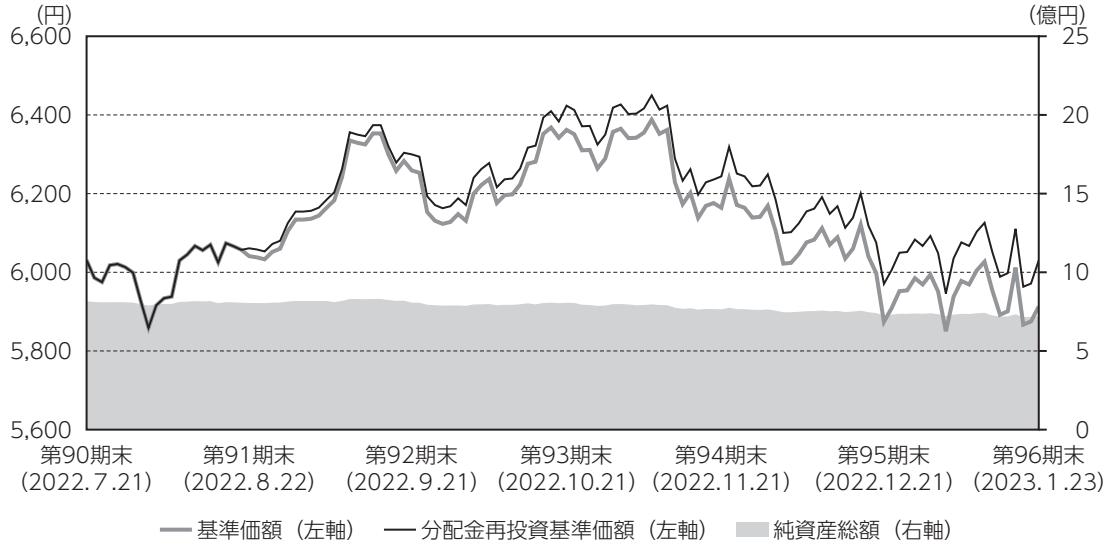
(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券 (転換社債券) を除きます。

(注7) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

第91期首：6,031円

第96期末：5,913円（既払分配金120円）

騰落率：△0.0%（分配金再投資ベース）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、債券価格の上昇や利息収入などがプラス要因となりましたが、多くの投資対象通貨が対円で下落（円高）したことがマイナス要因となり、基準価額はおおむね横ばいとなりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ短期国際機関債ファンド（毎月分配型）－成長の絆－

	年 月 日	基 準 価 額		JPMorgan GBI-EM ブロード ダイバーシファイド (円 換 算)		公 社 債 率 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
			騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
第91期	(期首) 2022年 7月21日	円 6,031	% －	11,105	% －	% 96.0	% －
	7月末	5,999	△0.5	11,022	△0.7	96.5	－
	(期末) 2022年 8月22日	6,061	0.5	11,328	2.0	96.0	－
第92期	(期首) 2022年 8月22日	6,041	－	11,328	－	96.0	－
	8月末	6,134	1.5	11,463	1.2	95.9	－
	(期末) 2022年 9月21日	6,279	3.9	11,706	3.3	95.6	－
第93期	(期首) 2022年 9月21日	6,259	－	11,706	－	95.6	－
	9月末	6,148	△1.8	11,341	△3.1	95.8	－
	(期末) 2022年10月21日	6,382	2.0	11,687	△0.2	93.1	－
第94期	(期首) 2022年10月21日	6,362	－	11,687	－	93.1	－
	10月末	6,357	△0.1	11,626	△0.5	94.0	－
	(期末) 2022年11月21日	6,184	△2.8	11,473	△1.8	94.8	－
第95期	(期首) 2022年11月21日	6,164	－	11,473	－	94.8	－
	11月末	6,169	0.1	11,512	0.3	94.8	－
	(期末) 2022年12月21日	5,894	△4.4	11,097	△3.3	93.3	－
第96期	(期首) 2022年12月21日	5,874	－	11,097	－	93.3	－
	12月末	5,951	1.3	11,219	1.1	93.4	－
	(期末) 2023年 1月23日	5,933	1.0	11,255	1.4	93.5	－

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2022.7.22～2023.1.23)

## ■債券市況・為替相場

新興国債券市場は、米国の金融引き締め観測の後退などを受けて、多くの国で金利は低下（債券価格は上昇）しました。新興国為替相場は、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の修正により円高米ドル安傾向となったことから、多くの新興国通貨は対円で下落しました。

## ・アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。

## ・欧州地域

ポーランド・ズロチは、中央銀行による利上げが上昇要因となり、対円で上昇（円安）しました。

## ・中東・アフリカ地域

南アフリカ・ランドは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。

## ・中南米地域

ブラジル・レアルは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。メキシコ・ペソは、中央銀行による積極的な利上げや高金利通貨としての魅力が上昇要因となり、対円で上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

## ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

## ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## ポートフォリオについて

(2022.7.22～2023.1.23)

### ■当ファンド

当作成期を通じて「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

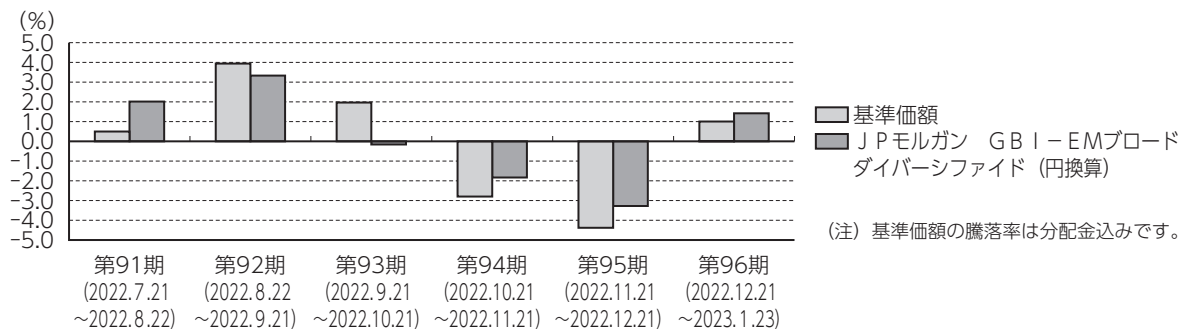
組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域へおおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第91期	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
	2022年7月22日 ～2022年8月22日	2022年8月23日 ～2022年9月21日	2022年9月22日 ～2022年10月21日	2022年10月22日 ～2022年11月21日	2022年11月22日 ～2022年12月21日	2022年12月22日 ～2023年1月23日
<b>当期分配金（税込み）（円）</b>	<b>20</b>	<b>20</b>	<b>20</b>	<b>20</b>	<b>20</b>	<b>20</b>
対基準価額比率（％）	0.33	0.32	0.31	0.32	0.34	0.34
当期の収益（円）	20	20	20	15	14	20
当期の収益以外（円）	－	－	－	4	5	－
翌期繰越分配対象額（円）	168	170	173	169	163	165

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第91期	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 20.08円	✓ 22.81円	✓ 22.50円	✓ 15.57円	✓ 14.81円	✓ 21.86円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	37.16	37.28	37.38	37.49	37.61	37.73
(d) 分配準備積立金	130.91	130.88	133.60	✓ 136.00	✓ 131.46	126.16
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	188.15	190.98	193.49	189.07	183.89	185.76
(f) 分配金	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	168.15	170.98	173.49	169.07	163.89	165.76

（注）✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第91期～第96期 (2022.7.22～2023.1.23)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	46円	0.748%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は6,124円です。
（投 信 会 社）	(21)	(0.335)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(24)	(0.391)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.022)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.012	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(0)	(0.008)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	47	0.760	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

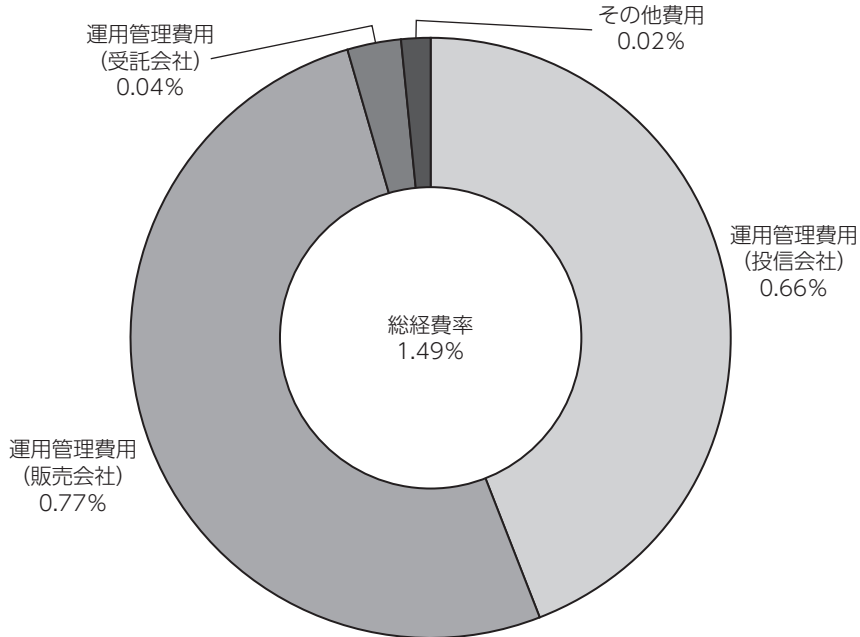
(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。



参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.49%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

ダイワ短期国際機関債ファンド（毎月分配型）－成長の絆－

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2022年7月22日から2023年1月23日まで)

決算期	第 91 期 ～ 第 96 期			
	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	1,386	1,539	93,855	105,060

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	第90期末	第 96 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	750,644	658,175	717,542

(注) 単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2022年8月22日)、(2022年9月21日)、(2022年10月21日)、(2022年11月21日)、(2022年12月21日)、(2023年1月23日)現在

項 目	第 91 期 末	第 92 期 末	第 93 期 末	第 94 期 末	第 95 期 末	第 96 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>809,439,548円</b>	<b>822,042,478円</b>	<b>809,695,203円</b>	<b>769,957,596円</b>	<b>729,170,321円</b>	<b>724,362,329円</b>
コール・ローン等	7,521,722	7,491,792	7,251,204	7,101,524	6,932,393	6,819,671
ダイワ短期国際機関債マザーファンド(評価額)	800,884,996	802,902,632	802,443,999	761,013,466	722,237,928	717,542,658
未収入金	1,032,830	11,648,054	－	1,842,606	－	－
<b>(B) 負債</b>	<b>4,755,556</b>	<b>15,202,600</b>	<b>3,516,315</b>	<b>5,280,687</b>	<b>3,414,856</b>	<b>3,444,882</b>
未払収益分配金	2,663,877	2,578,208	2,534,162	2,481,159	2,471,189	2,438,325
未払解約金	1,041,909	11,622,258	－	1,792,619	－	－
未払信託報酬	1,043,941	990,780	965,410	984,667	916,314	973,770
その他未払費用	5,829	11,354	16,743	22,242	27,353	32,787
<b>(C) 純資産総額(A－B)</b>	<b>804,683,992</b>	<b>806,839,878</b>	<b>806,178,888</b>	<b>764,676,909</b>	<b>725,755,465</b>	<b>720,917,447</b>
元本	1,331,938,927	1,289,104,376	1,267,081,127	1,240,579,834	1,235,594,626	1,219,162,827
次期繰越損益金	△ 527,254,935	△ 482,264,498	△ 460,902,239	△ 475,902,925	△ 509,839,161	△ 498,245,380
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>1,331,938,927口</b>	<b>1,289,104,376口</b>	<b>1,267,081,127口</b>	<b>1,240,579,834口</b>	<b>1,235,594,626口</b>	<b>1,219,162,827口</b>
1万口当り基準価額(C/D)	6,041円	6,259円	6,362円	6,164円	5,874円	5,913円

\* 当作成期首における元本額は1,353,370,390円、当作成期間(第91期～第96期)中における追加設定元本額は6,942,888円、同解約元本額は141,150,451円です。

\* 第96期末の計算口数当りの純資産額は5,913円です。

\* 第96期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は498,245,380円です。

■投資信託財産の構成

2023年1月23日現在

項 目	第 96 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	717,542	99.1
コール・ローン等、その他	6,819	0.9
投資信託財産総額	724,362	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、1月23日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=129.30円、1メキシコ・ペソ=6.857円、1インド・ルピー=1.61円、100インドネシア・ルピア=0.86円、1ブラジル・レアル=24.827円、1南アフリカ・ランド=7.57円、1ポーランド・ズロチ=29.903円です。

(注3) ダイワ短期国際機関債マザーファンドにおいて、第96期末における外貨建純資産(734,625千円)の投資信託財産総額(735,932千円)に対する比率は、99.8%です。

■損益の状況

第91期 自2022年7月22日 至2022年8月22日 第94期 自2022年10月22日 至2022年11月21日  
 第92期 自2022年8月23日 至2022年9月21日 第95期 自2022年11月22日 至2022年12月21日  
 第93期 自2022年9月22日 至2022年10月21日 第96期 自2022年12月22日 至2023年1月23日

項 目	第 91 期	第 92 期	第 93 期	第 94 期	第 95 期	第 96 期
(A) 配当等収益	△ 28円	△ 137円	△ 168円	△ 219円	△ 239円	△ 111円
受取利息	－	3	1	1	－	1
支払利息	△ 28	△ 140	△ 169	△ 220	△ 239	△ 112
(B) 有価証券売買損益	5,118,331	31,607,979	16,628,381	△ 21,168,513	△ 32,455,720	8,230,801
売買益	5,214,802	32,392,829	16,754,422	105,140	38,092	8,447,628
売買損	△ 96,471	△ 784,850	△ 126,041	△ 21,273,653	△ 32,493,812	△ 216,827
(C) 信託報酬等	△ 1,049,770	△ 996,305	△ 970,799	△ 990,166	△ 921,425	△ 979,204
(D) 当期繰越損益(A+B+C)	4,068,533	30,611,537	15,657,414	△ 22,158,898	△ 33,377,384	7,251,486
(E) 前期繰越損益	△ 471,253,826	△ 454,357,964	△ 418,743,685	△ 396,838,090	△ 419,417,216	△ 448,783,523
(F) 追加信託差損益金	△ 57,405,765	△ 55,939,863	△ 55,281,806	△ 54,424,778	△ 54,573,372	△ 54,275,018
(配当等相当額)	( 4,950,189)	( 4,805,938)	( 4,736,519)	( 4,650,979)	( 4,647,212)	( 4,600,888)
(売買損益相当額)	(△ 62,355,954)	(△ 60,745,801)	(△ 60,018,325)	(△ 59,075,757)	(△ 59,220,584)	(△ 58,875,906)
(G) 合計(D+E+F)	△ 524,591,058	△ 479,686,290	△ 458,368,077	△ 473,421,766	△ 507,367,972	△ 495,807,055
(H) 収益分配金	△ 2,663,877	△ 2,578,208	△ 2,534,162	△ 2,481,159	△ 2,471,189	△ 2,438,325
次期繰越損益(G+H)	△ 527,254,935	△ 482,264,498	△ 460,902,239	△ 475,902,925	△ 509,839,161	△ 498,245,380
追加信託差損益金	△ 57,405,765	△ 55,939,863	△ 55,281,806	△ 54,424,778	△ 54,573,372	△ 54,275,018
(配当等相当額)	( 4,950,189)	( 4,805,938)	( 4,736,519)	( 4,650,979)	( 4,647,212)	( 4,600,888)
(売買損益相当額)	(△ 62,355,954)	(△ 60,745,801)	(△ 60,018,325)	(△ 59,075,757)	(△ 59,220,584)	(△ 58,875,906)
分配準備積立金	17,447,448	17,235,244	17,246,282	16,323,931	15,603,446	15,608,770
繰越損益金	△ 487,296,618	△ 443,559,879	△ 422,866,715	△ 437,802,078	△ 470,869,235	△ 459,579,132

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第 91 期	第 92 期	第 93 期	第 94 期	第 95 期	第 96 期
(a) 経費控除後の配当等収益	2,674,685円	2,941,257円	2,851,679円	1,932,219円	1,830,524円	2,665,818円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	4,950,189	4,805,938	4,736,519	4,650,979	4,647,212	4,600,888
(d) 分配準備積立金	17,436,640	16,872,195	16,928,765	16,872,871	16,244,111	15,381,277
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	25,061,514	24,619,390	24,516,963	23,456,069	22,721,847	22,647,983
(f) 分配金	2,663,877	2,578,208	2,534,162	2,481,159	2,471,189	2,438,325
(g) 翌期繰越分配対象額(e-f)	22,397,637	22,041,182	21,982,801	20,974,910	20,250,658	20,209,658
(h) 受益権総口数	1,331,938,927□	1,289,104,376□	1,267,081,127□	1,240,579,834□	1,235,594,626□	1,219,162,827□

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
	第 91 期	第 92 期	第 93 期	第 94 期	第 95 期	第 96 期
1万口当り分配金（税込み）	20円	20円	20円	20円	20円	20円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

（年2回決算型）－成長の絆（年2回）－

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			JPMorgan GBI-EM ブロードダイバーシファイド (円換算)		公社債 組入比率	債券先物 比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
11期末(2021年1月21日)	8,629	50	2.6	11,476	5.0	95.2	－	13
12期末(2021年7月21日)	9,029	50	5.2	11,750	2.4	94.5	－	14
13期末(2022年1月21日)	8,873	50	△1.2	11,838	0.8	92.7	－	14
14期末(2022年7月21日)	9,636	50	9.2	12,195	3.0	95.8	－	16
15期末(2023年1月23日)	9,598	50	0.1	12,360	1.4	93.3	－	18

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) JPMorgan GBI-EMブロードダイバーシファイド(円換算)は、JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマーシング・マーケットズブロードダイバーシファイド(米ドルベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマーシング・マーケットズブロードダイバーシファイド(米ドルベース)は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

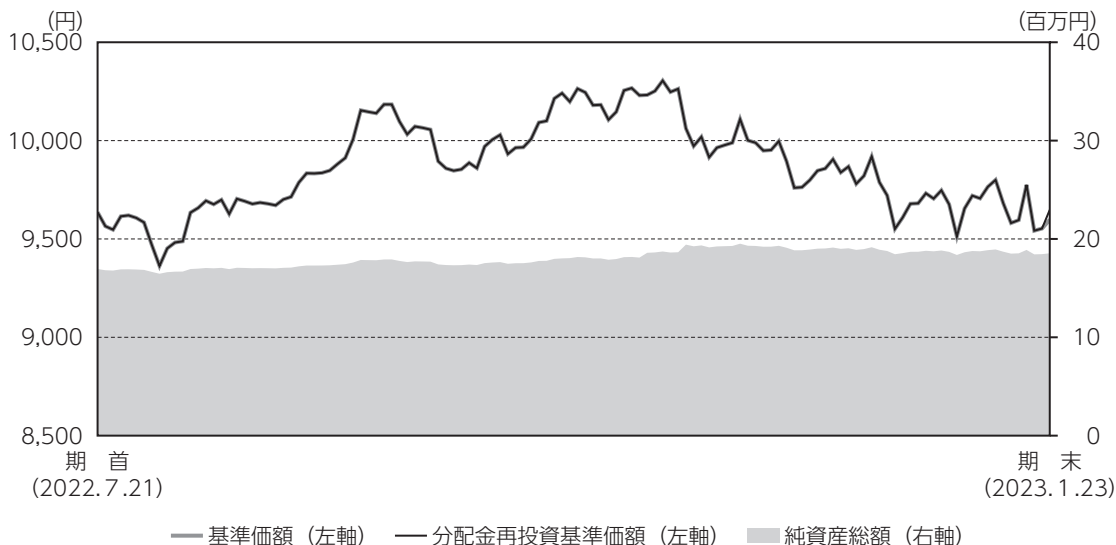
(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

(注7) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\*分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■基準価額・騰落率

期首：9,636円

期末：9,598円（分配金50円）

騰落率：0.1%（分配金込み）

#### ■基準価額の主な変動要因

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、債券価格の上昇や利息収入などがプラス要因となりましたが、多くの投資対象通貨が対円で下落（円高）したことがマイナス要因となり、基準価額はおおむね横ばいとなりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		J Pモルガン G B I - E M ブロード ダイバーシファイド (円 換 算)		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2022年 7月21日	円 9,636	% -	12,195	% -	% 95.8	% -
7月末	9,584	△0.5	12,104	△0.7	96.3	-
8月末	9,833	2.0	12,588	3.2	95.8	-
9月末	9,887	2.6	12,455	2.1	95.9	-
10月末	10,255	6.4	12,768	4.7	93.7	-
11月末	9,997	3.7	12,642	3.7	94.5	-
12月末	9,676	0.4	12,321	1.0	93.2	-
(期末) 2023年 1月23日	9,648	0.1	12,360	1.4	93.3	-

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2022.7.22～2023.1.23)

### ■債券市況・為替相場

新興国債券市場は、米国の金融引き締め観測の後退などを受けて、多くの国で金利は低下（債券価格は上昇）しました。新興国為替相場は、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の修正により円高米ドル安傾向となったことから、多くの新興国通貨は対円で下落しました。

#### ・アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。

#### ・欧州地域

ポーランド・ズロチは、中央銀行による利上げが上昇要因となり、対円で上昇（円安）しました。

#### ・中東・アフリカ地域

南アフリカ・ランドは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。

#### ・中南米地域

ブラジル・レアルは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。メキシコ・ペソは、中央銀行による積極的な利上げや高金利通貨としての魅力が上昇要因となり、対円で上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。



## ポートフォリオについて

(2022.7.22～2023.1.23)

### ■当ファンド

当作成期を通じて「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

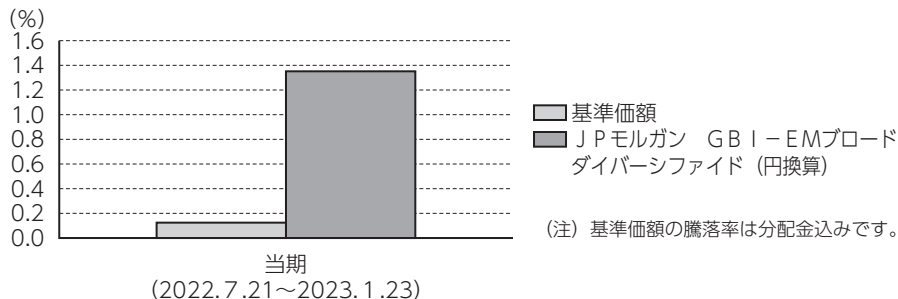
組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域へおおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2022年7月22日 ～2023年1月23日	
<b>当期分配金（税込み）</b> (円)		<b>50</b>
対基準価額比率 (%)		0.52
当期の収益 (円)		50
当期の収益以外 (円)		－
翌期繰越分配対象額 (円)		2,934

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当	期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓	149.79円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益		0.00
(c) 収益調整金		996.78
(d) 分配準備積立金		1,838.12
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)		2,984.71
(f) 分配金		50.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)		2,934.71

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2022.7.22~2023.1.23)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	75円	0.755%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,868円です。
（投 信 会 社）	(33)	(0.339)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(39)	(0.394)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(2)	(0.022)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.012	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(1)	(0.007)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	76	0.767	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

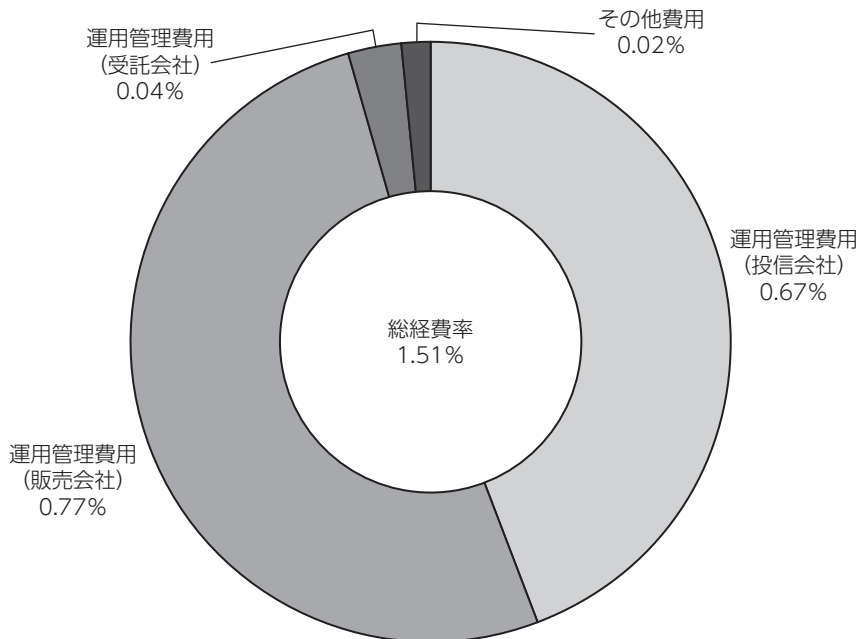
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.51%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2022年7月22日から2023年1月23日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	1,446	1,648	115	127

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■投信会社（自社）による当ファンドの設定・解約および保有状況

当作成期首保有額	当作成期中設定額	当作成期中解約額	当作成期末保有額	取引の理由
百万円	百万円	百万円	百万円	当初設定時における取得
10	-	-	10	

(注1) 金額は元本ベース。  
(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表  
親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	□ 数	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千口	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	15,546	16,877	18,399	18,399

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2023年1月23日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	18,399	98.0
コール・ローン等、その他	374	2.0
投資信託財産総額	18,774	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、1月23日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝129.30円、1メキシコ・ペソ＝6.857円、1インド・ルピー＝1.61円、100インドネシア・ルピア＝0.86円、1ブラジル・レアル＝24.827円、1南アフリカ・ランド＝7.57円、1ポーランド・ズロチ＝29.903円です。

(注3) ダイワ短期国際機関債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（734,625千円）の投資信託財産総額（735,932千円）に対する比率は、99.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年1月23日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	18,774,553円
コール・ローン等	374,785
ダイワ短期国際機関債マザーファンド(評価額)	18,399,768
(B) 負債	232,759
未払収益分配金	96,588
未払信託報酬	135,502
その他未払費用	669
(C) 純資産総額(A - B)	18,541,794
元本	19,317,682
次期繰越損益金	△ 775,888
(D) 受益権総口数	19,317,682口
1万口当り基準価額(C / D)	9,598円

\* 期首における元本額は17,582,799円、当作成期間における追加設定元本額は1,734,883円、同解約元本額は0円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,598円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は775,888円です。

■損益の状況

当期 自2022年7月22日 至2023年1月23日

項 目	当 期
(A) 有価証券売買損益	54,036円
売買益	54,036
(B) 信託報酬等	△ 136,171
(C) 当期損益金(A + B)	△ 82,135
(D) 前期繰越損益金	191,735
(E) 追加信託差損益金 (配当等相当額)	△ 788,900 ( 1,925,564)
(売買損益相当額)	(△2,714,464)
(F) 合計(C + D + E)	△ 679,300
(G) 収益分配金	△ 96,588
次期繰越損益金(F + G)	△ 775,888
追加信託差損益金 (配当等相当額)	△ 788,900 ( 1,925,564)
(売買損益相当額)	(△2,714,464)
分配準備積立金	3,743,628
繰越損益金	△3,730,616

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	289,377円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	1,925,564
(d) 分配準備積立金	3,550,839
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	5,765,780
(f) 分配金	96,588
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	5,669,192
(h) 受益権総口数	19,317,682口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	50円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。</li> <li>・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。</li> <li>・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。</li> <li>・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。</li> </ul>
---

# ダイワ短期国際機関債マザーファンド

## 運用報告書 第16期 (決算日 2023年1月23日)

(作成対象期間 2022年7月22日～2023年1月23日)

ダイワ短期国際機関債マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

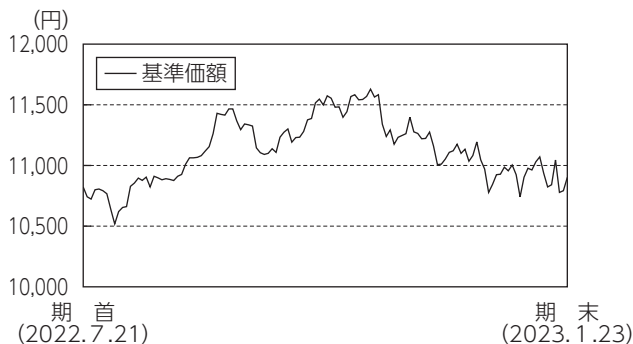
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	新興国通貨建ての国際機関債
株式組入制限	信託財産の純資産総額の10%以下

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移



年月日	基準価額		J.P.モルガン GBI-EM ブロード ダイバーシファイド (円換算) (参考指数)		公社債 組入比率	債券先物 比率
	円	騰落率 %	円	騰落率 %		
(期首)2022年7月21日	10,822	—	11,105	—	96.5	—
7月末	10,767	△0.5	11,022	△0.7	96.9	—
8月末	11,063	2.2	11,463	3.2	96.4	—
9月末	11,138	2.9	11,341	2.1	96.3	—
10月末	11,568	6.9	11,626	4.7	94.4	—
11月末	11,275	4.2	11,512	3.7	95.2	—
12月末	10,924	0.9	11,219	1.0	93.8	—
(期末)2023年1月23日	10,902	0.7	11,255	1.4	94.0	—

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) J.P.モルガン GBI-EMブロード ダイバーシファイド(円換算)は、J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド(米ドルベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド(米ドルベース)は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

(注6) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

《運用経過》

◆ 基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,822円 期末：10,902円 騰落率：0.7%

【基準価額の主な変動要因】

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、債券価格の上昇や利息収入などがプラス要因となりましたが、多くの投資対象通貨が対円で下落(円高)したことがマイナス要因となり、基準価額はおおむね横ばいとなりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆ 投資環境について

○ 債券市況・為替相場

新興国債券市場は、米国の金融引き締め観測の後退などを受けて、多くの国で金利は低下(債券価格は上昇)しました。新興国為替相場は、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロール(長短金利操作)の修正により円高米ドル安傾向となったことから、多くの新興国通貨は対円で下落しました。

・ アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。

・ 欧州地域

ポーランド・ズロチは、中央銀行による利上げが上昇要因となり、対円で上昇(円安)しました。

・ 中東・アフリカ地域

南アフリカ・ランドは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。

・ 中南米地域

ブラジル・レアルは、米国の金融引き締め観測の後退や日銀によるイールドカーブ・コントロールの修正により円高米ドル安傾向となったことから、対円で下落しました。メキシコ・ペソは、中央銀行による積極的な利上げや高金利通貨としての魅力が上昇要因となり、対円で上昇しました。

◆ 前作成期末における「今後の運用方針」

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

◆ ポートフォリオについて

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域をおおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

◆ ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当作成期の当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率は、「当作成期中の基準価額と市況等の推移」をご参照ください。

《今後の運用方針》

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。



■ 1万口当りの費用の明細

項目	当期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (保管費用)	1 (1)
(その他)	(0)
合計	1

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況

公社債

(2022年7月22日から2023年1月23日まで)

			買付額	売付額
外	メキシコ	特殊債券	千メキシコ・ペソ -	千メキシコ・ペソ 4,960 (-)
	インド	特殊債券	千インド・ルピー 13,911	千インド・ルピー 21,782 (-)
国	インドネシア	特殊債券	千インドネシア・ルピア -	千インドネシア・ルピア 873,480 (-)
	ブラジル	特殊債券	千ブラジル・リアル 1,464	千ブラジル・リアル 2,329 (-)
	ポーランド	特殊債券	千ポーランド・ズロチ -	千ポーランド・ズロチ 748 (-)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

公社債

(2022年7月22日から2023年1月23日まで)

当			期		
買	付		売	付	
銘柄	柄	金額	銘柄	柄	金額
INTL. FIN. CORP. (国際機関) 6.75% 2024/8/27		千円 38,478	EUROPEAN INVESTMENT BANK (国際機関) 2.85% 2022/12/13		千円 62,197
INTER-AMERICAN DEVELOPMENT BANK (国際機関) 5% 2024/2/12		17,346	INTL. FIN. CORP. (国際機関) 5.85% 2022/11/25		37,946
INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関) 4.65% 2024/10/16		6,442	EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT (国際機関) 5.95% 2022/10/27		35,061
			EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT (国際機関) 0.25% 2023/11/20		22,550
			INTER-AMERICAN DEVELOPMENT BANK (国際機関) 7.875% 2023/3/14		8,385

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

# ダイワ短期国際機関債マザーファンド

## ■組入資産明細表

### (1) 外国（外貨建）公社債（通貨別）

区 分	額 面 金 額	当 期			末				
		評 価 額		組 入 比 率	う ち B B 格 以下組入比率	残 存 期 間 別 組 入 比 率			%
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満	
メキシコ	千メキシコ・ペソ 12,000	千メキシコ・ペソ 11,567	千円 79,326	% 10.8	% -	% -	% -	% -	% 10.8
インド	千インド・ルピー 44,500	千インド・ルピー 43,893	70,669	9.6	-	-	-	-	9.6
インドネシア	千インドネシア・ルピア 12,200,000	千インドネシア・ルピア 12,244,530	105,302	14.3	-	-	-	-	14.3
ブラジル	千ブラジル・レアル 3,600	千ブラジル・レアル 3,499	86,884	11.8	-	-	-	-	11.8
南アフリカ	千南アフリカ・ランド 22,000	千南アフリカ・ランド 21,764	164,755	22.4	-	-	-	-	22.4
ポーランド	千ポーランド・ズロチ 6,600	千ポーランド・ズロチ 6,174	184,644	25.1	-	-	-	-	25.1
合 計	-	-	691,583	94.0	-	-	-	-	94.0

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

### (2) 外国（外貨建）公社債（銘柄別）

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
					千メキシコ・ペソ	千円	
メキシコ	EUROPEAN INVESTMENT BANK	特 殊 債 券	5.5000	千メキシコ・ペソ 3,500	千メキシコ・ペソ 3,500	24,001	2023/01/23
	ASIAN DEVELOPMENT BANK	特 殊 債 券	0.5000	5,500	5,271	36,150	2023/06/12
	INTER-AMERICAN DEVELOPMENT BANK	特 殊 債 券	0.5000	3,000	2,796	19,174	2023/09/05
通貨小計	銘 柄 数 金 額	3銘柄		12,000	11,567	79,326	
インド	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT	特 殊 債 券	4.6500	千インド・ルピー 4,000	千インド・ルピー 3,803	6,124	2024/10/16
	EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT	特 殊 債 券	6.5000	30,000	29,835	48,034	2023/06/19
	INTER-AMERICAN DEVELOPMENT BANK	特 殊 債 券	5.0000	10,500	10,254	16,510	2024/02/12
通貨小計	銘 柄 数 金 額	3銘柄		44,500	43,893	70,669	
インドネシア	INTER-AMERICAN DEVELOPMENT BANK	特 殊 債 券	7.8750	千インドネシア・ルピア 12,200,000	千インドネシア・ルピア 12,244,530	105,302	2023/03/14
通貨小計	銘 柄 数 金 額	1銘柄		12,200,000	12,244,530	105,302	
ブラジル	INTL. FIN. CORP.	特 殊 債 券	8.2500	千ブラジル・レアル 2,000	千ブラジル・レアル 2,002	49,704	2023/01/30
	INTL. FIN. CORP.	特 殊 債 券	6.7500	1,600	1,497	37,179	2024/08/27
				3,600	3,499	86,884	
通貨小計	銘 柄 数 金 額	2銘柄		3,600	3,499	86,884	
南アフリカ	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT	特 殊 債 券	-	千南アフリカ・ランド 10,000	千南アフリカ・ランド 9,586	72,566	2023/08/02
	EUROPEAN INVESTMENT BANK	特 殊 債 券	8.5000	12,000	12,178	92,189	2024/09/17
				22,000	21,764	164,755	
通貨小計	銘 柄 数 金 額	2銘柄		22,000	21,764	164,755	
ポーランド	EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT	特 殊 債 券	0.2500	千ポーランド・ズロチ 6,600	千ポーランド・ズロチ 6,174	184,644	2023/11/20
				6,600	6,174	184,644	
				6,600	6,174	184,644	
合 計	銘 柄 数 金 額	12銘柄		691,583			

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2023年1月23日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	691,583	94.0
コール・ローン等、その他	44,348	6.0
投資信託財産総額	735,932	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、1月23日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=129.30円、1メキシコ・ペソ=6.857円、1インド・ルピー=1.61円、100インドネシア・ルピア=0.86円、1ブラジル・レアル=24.827円、1南アフリカ・ランド=7.57円、1ポーランド・ズロチ=29.903円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(734,625千円)の投資信託財産総額(735,932千円)に対する比率は、99.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年1月23日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	744,385,579円
コール・ローン等	16,791,339
公社債(評価額)	691,583,832
未収入金	16,908,009
未収利息	17,679,016
前払費用	1,423,383
(B) 負債	8,456,917
未払金	8,456,917
(C) 純資産総額(A - B)	735,928,662
元本	675,052,676
次期繰越損益金	60,875,986
(D) 受益権総口数	675,052,676口
1万口当り基準価額(C / D)	10,902円

\* 期首における元本額は766,190,796円、当作成期間中における追加設定元本額は2,833,250円、同解約元本額は93,971,370円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：  
 ダイワ短期国際機関債ファンド(年2回決算型) - 成長の絆(年2回) - 16,877,425円  
 ダイワ短期国際機関債ファンド(毎月分配型) - 成長の絆 - 658,175,251円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,902円です。

■損益の状況

当期 自2022年7月22日 至2023年1月23日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	17,896,983円
受取利息	17,897,847
支払利息	△ 864
(B) 有価証券売買損益	△ 9,073,330
売買益	21,189,339
売買損	△30,262,669
(C) その他費用	△ 68,453
(D) 当期損益金(A + B + C)	8,755,200
(E) 前期繰越損益金	62,982,551
(F) 解約差損益金	△11,216,640
(G) 追加信託差損益金	354,875
(H) 合計(D + E + F + G)	60,875,986
次期繰越損益金(H)	60,875,986

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。